

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハミング子ども教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～ 令和7年 1月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 4日		～ 令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	サービス提供記録に毎日写真を添付し、お子さまの支援の様子や表情を見て、成長の把握をしやすいようにしている。	このサービス提供記録を、ハミング子ども教室では「三角ノート」と呼び家庭・関係機関(病院や保健センター等)・当事業所と連携を図るために利用している。また、保健センターの発達相談員や主治医等、お子さまの成長に関わるすべての機関と共通理解ができるように保護者の方にも提示して頂くようにしている。	サービス提供記録の内容の見直しや、関係機関への提示が出来るように声掛けをしている。また、家庭内だけでなく関係機関の方が集団の様子や成長が把握しやすいような内容に出来るように考慮する。
2	毎日通所の利用をすることで、お子さまが通所することに対して安心して日々の成長が把握しやすい。また、毎日支援員と関わることが安定した心の成長が促されると考えています。	入所当時は不安感が多く、緊張したり泣いてしまう場面がよくある。当事業所では、担任制にしておらずお子さまが一番最初に安心感を持った支援員がしばらくの間は担当になる。それを、ハミングママやハミングパパと呼んでおりキーパーソンとなり、まずは安心して通所できるようにしている。また、通所を楽しめるようになってきたらキーパーソンが他の支援員とも信頼関係を築いていけるように促している。	日ごろから様々な経験が出来るように、5領域を考慮して支援プログラムを考えている。また、ひとりひとりの成長に合わせて支援が出来るようにポータブルプログラムを基にしている。そして、定期的に個別観察支援を行うことでリアルタイムな成長を把握しケース会議をひらいている。このような取り組みをより充実していけるように努める。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域(近隣)の幼稚園や保育園との交流が難しい。	当事業所の立地は郊外にあたるため、子ども達が徒歩で参加ができるような幼稚園や保育園が近隣にない。以前、別法人へ交流の申し出をしたが、返答してもらえない実情がある。地域の幼稚園や保育園との交流を別法人に申し出る足がかりとして、自立支援協議会や行政などと話し合える機会ができるとうがたい。	他の子ども達と関わりが持てるように、公園やお散歩の際に挨拶をしたり、公園遊びで出会った際にはおもちゃの貸し借りや鬼ごっこなどを促している。地域の幼稚園や保育園などとも関わりが持てるように支援員間で情報共有している。
2			
3			